

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 1月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4773600061
法人名	医療法人 フェニックス
事業所名	グループホーム オアシス
所在地	南風原町新川452-1 (電 話) 098-889-6628

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(平成19年12月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建て, 3 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 70,000円) ☐ 無	有りの場合 償却の有無	☒ 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 0 円	
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2 3 名	
要介護3	4 名	要介護4 名	
要介護5	名	要支援2 名	
年齢 平均	87 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	博愛病院 沖縄セントラル病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームは病棟を改築し、全体に木目を用いて居り、家庭的で明るく清潔で開放感がある。 ・併設病院各部署との連携がとれ、スタッフが24時間安心して働ける体制があり且つ、職員教育にも力を入れている。 ・「共生」「信頼」「永続」の理念に基づいて入居者に寄りそう介護がなされ、入居者が落ち着いている。 ・母体の施設を地域の集会や行事などに開放し、地域とのつながりができている。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善すべき点について話し合いを持ち、居室づくりや外出、案内表示、事業所の啓発等、全ての面で改善の努力がなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 依頼されてから調査日までの短い期間にもかかわらず、全員で取り組み、管理者は職員にも問いかけてまとめている。又、運営については法人と共に検討し、他部署よりの意見も参考にして介護の見直しがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 従来より地域とのつながりがあり、メンバーの参加の状況も良く、地域の資源「ふれあいの杜」への外出や、地域のまつりへの参加など提言が活用されている。今後、入居者家族を複数メンバーに加えることも予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) アンケートや意見等で吸い上げ、法人としての体制は機能している。グループホームでは職員が担当制をとっているため、面会時やアセスメント、ケアプランの際によく聞き、取り上げている。家族会も年に2回定期的に開催している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 母体の施設を地域に開放し、自治会集会やまつり、敬老会などを行う拠点になっている。あらかじめ社会福祉協議会、市などからも行事等を情報収集し、選択して計画実施している。「ふれあいの杜」への外出時の園児とのふれあいや職員を講師として派遣したりのかかわりがある。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のニーズに応える形で当グループホームを立ち上げた経緯があり、理念の「共生」「信頼」「永続」は地域住民及び管理者、職員双方に共有されている。	○	職員異動時や採用時を含め、地域との交流の中でも理念が浸透するよう内部において常時検討されることを今後も期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	三つの理念に即して、寄り添い、聞き役になり、不安や混乱した時にもその姿勢でかわり対応している。朝のミーティングや月一回の会議でも確認し、日々の介護に活かしてことで入居者の安心した姿につながっている。	○	日々の継続によって築き上げられた理念を管理者職員が同一のレベルで共有しあい、日常の介護場面に反映するよう更なる取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設の会議室や広場などを地域に開放し、自治会集会やまつり、敬老会などが行われている。近隣に新設された「ふれあいの杜」への外出や地域のまつりに参加している。		あらかじめ社会福祉協議会や、市などの広報から行事等の情報を収集し、地域との交流に活かすよう選択して計画実施してる点など積極性が伺える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることにより、職員各自でケアの振り返りができ、具体的な改善につながっている。前回の外部評価についても話し合いを持ち、案内表示のとりつけ等、改善の努力がされている。		できること、取り組みそうな事を更に実現しようと数多く改善がなされており、その努力が評価できる。改善に取り組んでいることとして、その人らしい居さづくりの飾り付け(のれんや好みのポスターを用意する等)が行われている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催される会議はメンバーの参加状況も良く、多才なメンバーから「ふれあいの杜」への外出や、地域のまつりへの参加などの提言があり、活用されている。		従来より地域とのつながりがあり、メンバーの方々の協力体制が良好である。事業所側は現場の職員や入居者家族を複数メンバーに加える案があり、入居者も会議への参加がうたわれ、今後の活動の充実を目指している点、注目される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の役場に出向いたり、講師の依頼を受けて福祉センターで講演をするなどのつながりがある。運営推進会議の報告と共に地域の行事に行政の方の参加もある。		地域密着型となり、入居者が「市町村在住の方」と対象が制限され、空きがあっても活用されない。他市町村では待機者が出るという現象が出ている。広域連合で望むとか行政側との協議による模索が必要な課題であると思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	オアシス便りは職員が当番で制作し、担当職員は家族面会時に現在の報告する等その都度様子を知らせている。また、家族に伝えたいことはファイルにまとめ、玄関に置きいつでも見て貰えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置されているが、意見や苦情は出ていない。法人としてサービス向上委員会で事業者側の意見を取り上げてもらっている。アセスメント、ケアプランの際に良く聞き取り、意向を取り上げている。	○	担当者とかかわりや、家族会での雰囲気づくりなどに留意し全体での点検工夫の上、家族の意見、不満、苦情が活発に出されるよう、取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は殆ど法人内が多く、引き継ぎ一ヶ月前から時々顔を出し、一週間は共に勤務するなど利用者への配慮をこころがけている。	○	入居者や家族との関係、職員のチームワーク、外部とのつながり、運営推進会議などの面に及ぼす影響などについて、その都度の検証が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で教育委員会を設置し、年間研修計画のもとに職員の研修がなされている。又、外部の研修にも積極的に参加している。学習療法など事業所が全額費用負担して認定資格(二級)取得者が四名居る。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の施設を三箇所見学し、食事のメニューなど参考にしている。それをもとにグループホーム大会において発表する機会があり、同業者との交流も深まった。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまで本人が利用していたものを持ってきて貰っている。利用者への声かけを多くし、一緒に話し合う機会を多く持つようにしている。それでも落ち着かない時は家族に来て貰うことがある。	○	環境の変化で混乱しないよう馴染んで貰えるよう雰囲気づくりをしている。家族も面会の機会を増やして貰い、職員とホームに馴染んでくれるよう支援に力を入れていきたいとの姿勢を保持、探求されるよう期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	故郷の行事や習慣を利用者に教えて貰っている。食事の準備など、できる人には手伝って貰い、洗濯物をたたんだり、部屋の掃除も利用者に教わりながら、一緒にやっている。		職員は、利用者の個々の背景を把握し、アセスメントやケアプランの見直しをして経験を共有し、ふれあい関係を築いていきたい。方言講座なども受け、ことばをもっと理解できるようにしたいとの気持ちがある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜勤者は利用者の思いをじっくり聞く機会を持つように努めている。又、買い物や散歩の時もできるだけ話を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を配置しており、ケアプラン作成時には利用者家族から意見を聞いている。担当者ケアマネはアセスメントの際の見直しと共にプランに盛り込んでいる。	○	担当者と一部の職員が共有できない部分もあるため、職員全員が共有できるよう今後、会議を持ち話し合う機会を作るという意向を尊重したい。一人一人の気付きが深まり、利用者の理解につながる大事な場になると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病院からの退院時、本人に変化が見られる時は、日常生活、トイレ、食事、医療、等々の面でその都度見直している。特に変化が見られない時は六ヶ月に一回の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス等、法人の併設をうまく利用し、リハビリについての情報や、合同の行事などの交流がある。又、利用者の急変や病状について看護部門と電話相談をしたり、夜間についての支援が得られている。管理者不在の時は、他部署より様子をみに来てくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院で定期受診をしているが、総合病院や専門医にかかる時は、家族とも相談し処方箋を持たせるようにしている。緊急時の一覧表を作成している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を実施しており、これまでターミナルケアを行ってはいないが、重度化した利用者については、協力医療機関の医師等と検討を行い、利用者本人・家族の意見を確認しながら、利用者にあったサービスを提供している。	○	ターミナルケアを行っている他のグループホームを参考に今後、急変時、重度化の場合の本人、家族の意向を再確認していきたいとの事業所側の姿勢に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報外部の者から見えないようにロッカーに鍵保管している。事業所の出入りには、外部の人や関係業者からもプライバシー保護の同意書をとっている。職員によるプライバシーを損ねるような発言もみられず、個人の尊厳に対する配慮がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴中、民謡、テレビなど本人の意向に添うよう手伝っている。書き取りをやりたい方がいて、年賀状書きもできるようにするなど学習療法で字の練習や計算も希望に添って行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しや食事の準備に参加して貰うことにより、楽しく食事ができている。コープの注文票で利用者と一緒に選択し、メニューに取り入れている。歯肉炎のある方には食べやすいように細かくしたり煮込んだりの工夫をしている。	○	食事は美味しいと評判も良く、力を入れている。県内グループホームの大会で「満足いく食生活を送るには～食事づくりを通して～」のテーマで発表を行った。今後も更に追求、継続していけるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日ごしに四名ずつ午前中に入浴を行っている。外出時や希望がある時はその都度対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の体操、環境美化、部屋の掃除(ほうきを用意した)を行っている。水槽の餌やりを日課にしている人や、魚を食べたい希望のある時は漁港まで出かけ、その時魚について利用者から職員が教えられる事もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の声かけにより、ジャスコやサンエーなどへ買い物に出かけている。日常、職員が院内の部署に用事で行くときにも一緒に散歩している。院内の売店などにも立ち寄る。法人のワンボックスカーで漁港まで買い出しに行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが二階にあるので転倒防止のため玄関階段側に門扉があり、その外側に手動の施錠が取り付けられている。入居者はほとんどそこまで出ず、事務所側の部屋の職員と挨拶して戻る、さりげない対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	初期消火など日中、夜間を想定して年に二回自主訓練を職員全員参加で行っている。台風時は、夜間要員の男子職員が待機し、緊急連絡網の体制や避難場所などの備えもしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給の一覧表を作成し、常にチェックしている。栄養のバランスやメニューについて、栄養士と相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けをしている。台所のカウンターは低く、居間、食堂での交流があり、安心した雰囲気がある。トイレ、浴室も分かりやすく工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた好みの家具を上手に取り入れ全体と良く調和している。写真が飾ってあったり、清潔で整理好きの方の居室はスッキリとし、それぞれの個性を大事にしている。		